

様式第3号(第9条第1項関係)

政務調査費調査等報告書

1 事業名 研修事業

2 事業内容 ①第21回全国浄化槽技術研究集会参加
②第2回マニフェスト大賞授賞式及び研修会

3 成果 別添のとおり

- 注) 1 事業名には収支報告書の支出科目区分により記入のこと。
2 事業内容及び成果には、具体的な内容とその成果を記入のこと。

研修事業の成果

(1) 第21回全国浄化槽技術研究集会

- ・平成19年10月11日
- ・青森県

① 研修の目的

公共下水道事業は取りやめとなった福島町の生活排水処理は課題として残されたままです。

合併浄化槽について、今日の開発状況を調査したいと考えました。

② 研修の内容

ア 「新時代」とは

- ・財政の逼迫と公共事業の縮小
- ・地方で顕著な人口減と少子高齢化
- ・縦割り行政批判と地方分権化
- ・地球温暖化と頻発する異常現象
- ・アジア、中東の躍進

イ 浄化槽技術を様々に活用しよう

- ・浄化槽システムは極めて優れた小型でコンパクト
- ・このシステムには、維持管理の体系が内包されていることが大きな特色
- ・し尿を含む生活排水だけでなく有機系汚水（例えば、ウドンの煮汁などの食品加工排水）の処理にも活用可
- ・処理水、汚泥の再利用
- ・ソーラーや小型風力の活用も促進
- ・浄化槽は地震災害に強いことが実証

③ 研修の考察

排水処理の課題は水産課工場の産排水も併せ、港に注ぐ排水の浄化、そして将来、完成予定の海水浴場のためにも差し迫ったものとなりつつあります。

福島町にふさわしい廃水処理方法として、合併浄化槽を現実的なものと考えました。

- 1、開催月日 平成 19 年 10 月 11 日
- 2、開催会場 「ホテル青森」青森市堤町 1-1-23
- 3、主 催 財団法人 日本環境整備教育センター
- 4、後 援 環境省・農林水産省・青森県・青森市・「浄化槽の日」実行委員会
全国合併浄化槽普及促進市町村協議会

5、開催主旨 近年、浄化槽は国民が快適な生活を送るために欠くことのできない生活基盤施設の一つとして大きな社会的役割を担っています。
本研究集会は、浄化槽に関する技術の向上と適正な普及促進を図ることを目的に、昭和 62 年より「浄化槽の日（10 月 1 日）」の関連行事として、毎年開催されています。

全国から浄化槽技術研究会会員、大学・研究機関の浄化槽研究者、浄化槽行政担当者、県・市町村議会議員、浄化槽関連業界、住民が集い、一堂に会して浄化槽に関する研究発表・事例発表およびシンポジウムなどを通して最新の情報を提供し、意見交換することは、水環境の保全に寄与し、快適な生活環境を創造する一助として期待されています。

なお、法定検査の向上を図るため、平成 2 年より浄化槽検査員等を対象に新しい処理技術の導入に応じた検査技術などの研鑽を行う専門的な会を実施しており、平成 14 年からは研究発表会についても実施し、発表された課題のうちから、「浄化槽研究奨励・楠本賞」要領に基づき、優秀と認められる課題を選定し研究奨励金を贈呈することとしています。

6、研修内容

① 研究発表会(B 会場 9 : 30~10 : 30)

座長：大阪府立公衆衛生研究所 山本 康次

A、「小型浄化槽の維持管理に対応した水質計測機の開発と遠隔計測への適応性」

財団法人 日本環境整備教育センター 仁木 圭三

B、「圧力検出による小型浄化槽異常警報装置」

株式会社 シンワ 高田 勝実

C、「管状膜を導入した小型浄化槽の処理性能とその特徴」

ニッコー株式会社 沖津 英夫

D、「人口減少が進む地域における集合処理と個別処理の選択手法」

(人口減少が進む中山間地の汚水処理施設整備における浄化槽の意義)」

鳥取大学工学部 社会開発システム工学科 細井 由彦

② 「トップセミナー青森」(10 : 50~12 : 15)

I、開催目的 今日、下水道事業や集落排水事業は、市町村の行財政に大きな負担となっている。そこで、市町村の政策決定に携わる市町村長、議会議員などを対象として、経済的・効率的な生活廃水処理施設である浄化槽の特徴

や地域の実情にあった生活処理施設の整備手法を選択するための提案・説明を行い、市町村における生活廃水処理対策の政策転換を推し進めることを目的とする。

また、浄化槽は循環型社会形成において、環境保全上健全な水環境の構築に大いに寄与することのできる個別分散型施設であることを強くアピールするものである。

- II、主催者挨拶 社団法人 青森県浄化槽検査センター 谷川 眞 則
III、来賓挨拶 青森県環境生活部長 高坂 孚
青森県合併浄化槽普及促進市町村協議会会長 小林 眞
IV、講演 「財政の改善と投資効果を考慮して生活廃水処理施設のあり方」
(財)日本環境整備教育センター調査研究部長 国安 克彦
V、閉会挨拶

③全国浄化槽技術研究集会 (13:00~14:45)

- I、主催者挨拶 (財)日本環境整備教育センター理事長 入山 文 郎
II、来賓挨拶 環境大臣 鴨下 一 郎
農林水産大臣 若林 正 俊
青森県知事 三村 伸 吾
青森市長 佐々木 誠 造
社団法人青森県浄化槽検査センター理事長 谷川 眞 則
III、浄化槽研究奨励・楠本賞贈呈
IV、特別講演「今やるべきこと、できること、持続可能な社会の形成に向けて」
NPO 法人 環境生態工学研究所 須藤 隆 一
V、次回開催地挨拶 社団法人 香川県浄化槽センター会長 山条 忠 文
VI、閉会挨拶 (財)日本環境整備教育センター常任理事 奥村 知 一

7、参加日程

10月11日 6:50 福島出発
7:39 木古内発 (S白鳥10号)
8:51 青森着
9:30 全国浄化槽技術研究集会参加 (~14:45)
17:22 青森発 (S白鳥19号)
18:35 木古内着
19:15 福島着

8、参加議員

- ① 滝川 明子
- ② 金沢 秀一
- ③ 平野 隆雄
- ④ 溝部 幸基

【第21回全国浄化槽技術研究集会参加報告書：資料(写真)】

◎開催月日 平成19年10月11日 ◎開催会場「ホテル青森」青森市堤町1-1-23



《会場「ホテル青森」入口にて》



《研究発表会会場》

(2) マニフェスト大賞授賞式及び研修会

- ・平成19年11月10日
- ・東京都

①研修の目的

全国338団体・547件の応募

ノミネート35件中ベストホームページ賞と最優秀成果賞にノミネートされて、最優秀成果賞を受賞しました。

式典に参加することにより、受賞理由を知るとともにマニフェストとは何かを学ぶことです。

②研修の内容

ア 各受賞者の挨拶から含蓄のあるメッセージを受けました。

- ・マニフェストを基軸と政治文化を育みたい
- ・生活者視点、参加と協同、国民主体が大切
- ・本質は生活者基点でマニフェストの中身をどう高めて行くか
- ・政治のメール化が求められる、かなり見えにくい政治を見えやすくする
- ・IT不可欠、全国に拡げることのスピードアップ
- ・お願い選挙から約束の選挙へ

③研修の考察

ないものねだりの陳情よりも、あるもの探しの政策立案、推進こそ重要であることをマニフェストは教えています。

また、マニフェスト運動が分権、自立した地域を作るため、首長、地方議会の両者にとって、真の二元代表制を確かめる機会となることを期待されております。

今回の授賞を機会に一層の研鑽を決意しました。